ユビキタス技術によるキャンパスライフ支援の考察

○吉川 嘉修

和歌山大学大学院システム工学研究科

Campus Life Support by Ubiquitous Technology

Hiromasa Yoshikawa

Graduate School of Systems Engineering, Wakayama University

1. はじめに

本報告では、日本人間工学会アーゴデザイン部会2005年度合宿「ユビキタス+ユニバーサルデザイン方法論の実践」において、あるグループが検討した内容について報告する。本合宿では、フォトエッセイ・シナリオ手法を用いて大学キャンパスを対象としたユビキタスシステムのデザイン仕様の作成を試みた。

2. フォトダイアリー、フォトエッセイ

本グループで利用したフォトダイアリー、フォトエッセイの概要を以下にそれぞれ示す。紙面の都合上フォトダイアリーの写真は省略する。

2.1 フォトダイアリー

タイトル：春休み中のある日の行動

制作者：学部3年生（女性）

《午前》

8:30-9:00 メールチェック、朝食

9:00-9:30 コンビニで昼食を買う、写真の現像

9:30-12:30 部活動の練習（私はマネージャー）

12:30-13:00 昼食を自動車の中で食べる

13:00-13:30 部活動の片付け

13:30-14:00 セルフのガソリンスタンドで給油

《午後》

14:30-16:30 ゼミ

16:30-17:00 ゼミの後、沖縄土産をみんなで食べる

17:00-17:30 新ゼミメンバーのアカウント作成

17:30-20:30 近所の映画館に映画を見に行く

20:30-21:00 映画館の下でスーパーで買い物（メールで

1人友達を晩御飯に呼ぶ）

21:00-21:30 鍋の準備（電話でもう1人友達を呼ぶ）

21:30-22:00 4人で鍋を食べる

22:00-25:00 お菓子をつまみながらゲーム（ファミコン）

2.2 フォトエッセイ

タイトル：冬でもパンプスを履ける事

制作者：学部3年（女性）

足が生まれつき少し悪いため、足が冷える
とヒールのある靴が履けなかった。しかし、
暖かい和歌山に引っ越してから、冬でもパン

プスを履けるようになった。

タイトル：モーニングコーヒー

制作者：修士2年（男性）

朝起きてすぐにコーヒーを入れることに幸
せを感じる。目が覚めきってしまう前に飲む
ことで、一日で最もゆったりとした時間を過
ごすことができる。

図1. 利用した写真

3. ニーズ分析とキーワード設定

フォトダイアリー、フォトエッセイを参考に、
大学生が感じる幸せにどのような特徴がある
かについてブレインストーミングを行い、グ
ループピングを行った。その結果、「相対性」と
「リズム」をキーワードとして抽出した。相
対性とは、ある出来事に感じる幸せの度合い
が相対的であることや、出来事の受け止めら
れ方が人によって異なることである。リズム
とは、複数ある出来事が織り成す幸せのリズ
ムのことである。続いてグループを午前グル
ープ、午後グループ、夜グループの3つの小
グループに分け、それぞれの時間帯における
シナリオと提案物の構築を行った。

4. 提案内容

本グループの提案は、キャンパスライフの
支援として、主に授業、部活、その他の3つ
の時間帯における支援を行う。授業の支援で
は、「鍋授業」という学生が主体となって学び
たい授業を開講することができるスタイルを

提案する。これは、材料を持ち寄って行う鍋のスタイルを応用したものである。その他の時間帯における支援も含め、本グループの提案内容を以下に示す。

- ・ 生徒用キット

授業用システムと部活用システムがある。授業用システムでは毎日のカリキュラムの確認や出欠の送信を行うことができる。また、自分が希望する授業を提案することもでき、その提案に賛同するものが多数いる場合は授業として開講させることができる。授業内容に該当する職員がいない場合は外部の職員を客員として招くことができる。授業は基本的に対面で行うが、外部から遠隔出席することもできる。部活用システムでは、メンバーの健康状態の管理や過去の戦歴などをデータベースから取り出すことができ、目的にあったトレーニングを調べることができる。

- ・ 教員用キット

教員がもつキット。学生からの要望を聞き、授業を構築することができる。

- ・ ユビキタス鍋

中の状態を画像として時系列保存することができる鍋。

- ・ ユビキタス枕

記録した香りや振動を生成することができる枕。例えば鍋に参加できなかった者に、鍋が行われた環境を共有させることができる。プロジェクターも備えており、ユーザの視線に合わせた投影が可能。

- ・ フォトダイアリーカメラ

一定時間ごとに自動で撮影するカメラ。フォトダイアリーを自動的に作成できる。

5. まとめ

5.1 提案内容について

今回は短時間での実施であったため、提案内容の具体的な検討までは至らなかった。著者個人の印象では、提案物のひとつであるユビキタス鍋をさらに深く検討することで魅力的な製品に仕上げるのではないかと考えている。学生同士の鍋では、各人の予定により、参加者が入れ替わり立ち代り変化することがある。今回の提案物では鍋の中身が時系列保存される仕様であったが、加えて鍋の側面に 360 度カメラを備え付け、部屋全体の様子を時系列保存できるようにすれば、ひとつのイベントのアルバムとして活用でき

るのではないかと考えている。

5.2 フォトエッセイ・シナリオ手法について

フォトエッセイ・シナリオ手法では、写真や文章などを活用するので、具体的な情報を伝えることができると思われる。また、制作者自身が自覚していない重要な観点を他者が発見することもしばしば起こりえる。これはインタビューでは困難なポイントではないかと考える。

フォトダイアリーは、時系列的なつながりを持った体験であるので、文脈性を持った情報を他者に伝えることができると思われる。今回のフォトダイアリーは学生が提供したが、学生でない者にとっては現在の学生の生活をより現実味をもったものとして実感できたのではないかとと思われる。中には自身が想像していたものと大きなギャップがあることに気付いた者もいるかもしれない。

フォトエッセイは、制作者の深い内省を経て選ばれたシーンであるので、個人の価値観がよく反映されたものであると思われる。また、他の様々な選択肢の中から選ばれたシーンであるので、他者に説明する際、質問に受け答えしやすいと思われる。

フォトエッセイ・シナリオ手法を実践するうえで注意すべき点は、フォトダイアリーやフォトエッセイがあくまでひとつの事例である点と思われる。従って、「他の人ならどう思うか」や「他の場所ならどうであるか」など 5 W 1 H を変化させて考察することで、より幅広い検討が可能になると考えられる。

※本発表は日本人間工学会アーゴデザイン部会と情報社会人間工学部会との共催で2005年度に開催された合同合宿会研究会に於いて、以下の方々との討議の成果を基に構成したものです。皆様に改めて感謝致します。

幾原武志 (株) ホロンクリエイイト、鱗原晴彦 ((株) ユー・アイズ・デザイン)、奥早織 (和歌山大学)、小倉なづき (千葉大学)、小山毅 (千葉工業大学)、折出翔 (神奈川大学)、柴田園子 (トヨタ自動車 (株))、高橋肇 ((株) リコー)、高橋靖 (千葉工業大学)、人見幸香 ((株) インターソフト)、細田彰一 (昭和女子大学)、堀野定雄 (神奈川大学)、山崎和彦 (日本アイ・ビー・エム (株))

<敬称略・50 音順>